

平成 2 7 年度
公立大学法人 業務実績評価書

平成 2 8 年 8 月
福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、4事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを最も重要な使命としている。

平成27年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中5項目（研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」、1項目（教育）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、学生の歯科医療人としての自覚を高めるため、歯科医学教育センターを立ち上げ、歯学教育全般の改編を図るなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の平成27年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

歯科医療の高度化や高齢化社会の進展等、歯科保健医療を取り巻く環境や社会的ニーズが変化する中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより社会貢献の充実に向けた取組を更に推進されることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成

- ・歯学教育全般の改編を進めるために、歯科医学教育センターを立ち上げ、早期登院実習及び学外宿泊研修を単独科目として開講した。
- ・平成27年度の歯科医師国家試験合格率が全国29大学中16位と低下（平成26年度4位）しており、合格率の高水準への回復に向け、原因分析と対策に取り組む必要がある。

(2) 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成

- ・口腔保健学専攻修士課程について、入学定員充足率を充たすとともに、修士課程から歯学専攻博士課程に進学できる体制を整備した。
- ・文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、4大学間で単位互換を実施するとともに、国際会議を開催し、大学院生による研究発表を行った。

(3) 教員の教育力の向上

- ・教育改善等に係る講演やワークショップの開催に加え、大学ガバナンス等に関する研修を実施することにより、教員の認識を高め、FD（※）の推進に努めている。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

(4) 適性のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義の実施など高大連携に取り組むとともに、高校訪問、オープンキャンパス、施設見学会等の入試広報活動を積極的に実施し、歯学科、口腔保健学科ともに志願倍率が目標を上回った。

(5) 学生への支援

- ・口腔保健学科において、「就職支援実施会議」を活用した組織的就職支援体制により、引き続き就職率100%を達成した。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。
- ・文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に連携校として参加し、高齢者支援に係る実践的教育を推進した。

3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術交流協定締結校から短期留学生の受入れを開始したことや、短期海外派遣プログラムを正規の選択科目として実施したことを評価する。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・新たなプロジェクトの計画書等の作成を教職連携で進めるなど、戦略的・自律的大学運営に努めている。
- ・附属病院の診療体制を専門診療部と総合診療部に分けるなど、患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制の共存を図った。

5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・紹介歯科医師が患者情報を提供するシステムを構築するなど、地域医療連携を積極的に進めている。
- ・歯科診療所で対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数が目標を上回った。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。
- ・ 創立百周年記念事業により設立した基金を活用し、国際交流活動を推進するなど、大学のプレゼンスを高めた。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、4事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、時代や社会の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる女性を育成することを最も重要な使命としている。

平成27年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（社会貢献）について「特筆すべき進捗状況にある」、5項目（教育、研究、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、国際的な学習環境を提供するために、海外有力大学への交換留学や海外語学研修への学生派遣、外国人留学生の受入れを積極的に行うなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の平成27年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、平成23年度に国際文理学部を開設し、新しい時代にふさわしい大学づくりに向けた改革に全力で取り組んでおり、一定の成果がみられる。

今後とも理事長のリーダーシップの下、全教職員が大学の理念の実現を目指した「福岡女子大学将来ビジョン」を共有し、一丸となって実効性の高い改革を進められることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) グローバル化時代に求められる基盤的・実践的な能力を養成する学部共通の教育
 - ・ 交換留学、海外体験学習、語学・文化研修など海外派遣学生数が目標を大きく上回っており、国際的な学習環境の充実に積極的に取り組んでいることを評価する。
 - ・ 「国際学友寮 なでしこ」での全寮制教育において、新たにインターナショナル・デイを実施するなど、学生が主体的に寮運営に取り組んでいる。
- (2) グローバル社会の課題に対応した各学科の教育
 - ・ 栄養・健康関連の海外体験学習プログラムの充実を図るとともに、管理栄養士国家試験の合格率が目標を大きく上回ったことを評価する。
- (3) 大学院教育
 - ・ 国際文理学部の教育研究を発展・深化する新しい大学院研究科として、人文社会科学研究科及び人間環境科学研究科を開設し、教育研究の充実を図った。
- (4) 教員の教育能力の向上
 - ・ 学生による授業評価の公表や公開授業を実施するなど、FD（※）の推進に努めている。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

（5）意欲ある学生の確保

- ・高校訪問、出前講義、オープンキャンパスの開催等、入試広報活動に取り組み、一般入試の志願倍率を高水準で維持していることに加え、留学生の志願倍率が目標を上回った。

（6）学生支援の充実

- ・企業訪問や就職対策講座開催等により、新規卒業生全体の就職率が目標を大きく上回ったことや、外国人留学生の就職率が100%となったことを評価する。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・研究奨励交付金にリサーチコア支援枠を設けるなど、研究環境の整備を推進した。
- ・「アジア地域大学コンソーシアム福岡」終了後も、枠組みを活用した共同研究を進め、研究成果の深化を図るとともに、新たなコンソーシアムの構想を立ち上げたことを評価する。
- ・科学研究費補助金の新規獲得率が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 社会貢献

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げられる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に採択された「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」を本格的に実施した。
- ・出前講義等の小中高との教育連携数が目標を大きく上回るとともに、生涯学習カレッジを新たに開講し、壮年・高齢期のアクティブな学習の場を提供したことを評価する。
- ・「アジア地域大学コンソーシアム福岡」を契機とする国際共同教育プログラム「EAT」により、海外大学との教職員交流及び学生交流を実施した。
- ・短期受入留学生数が目標を大きく上回り、私費外国人受入留学生の出身国が過去最多の5か国となったことを評価する。
- ・留学フェアやイングリッシュ・ビレッジ等在校生の海外志向を高める取組を実施し、目標を上回る学生の海外派遣につながった。
- ・企業・障がい者福祉施設・ボランティア団体と連携し、障がい者のアート作品をデコレーションする「アートトラック」制作による社会貢献活動を実施した。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員の採用やメンター制度の導入、職員の英語力向上研修を実施した。

5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を大きく上回る収入実績をあげていることを評価する。
- ・経費削減プロジェクトチームにより業務効率化等を推進し、管理経費の節減に努めている。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、英語版ホームページの充実を図った。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、4事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

平成27年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中5項目（研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」、1項目（教育）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業等、社会貢献活動を積極的に実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成27年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で着実な成果をあげてきている。

今後とも地域との連携のもと社会貢献活動等に積極的に取り組むとともに、大学の理念の実現を目指して、教育研究をはじめとした業務の充実・改善に向けた取組を更に推進されることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育の充実

- ・グローバル化に対応するために、教養演習英語クラスの実施など語学教育の充実に取り組んでいる。

(2) 専門教育の充実

- ・人間社会学部において専門性を高めるため、学科制からコース制への移行に伴い、各コースのカリキュラムの見直しを行い実施した。
- ・文部科学省「大学教育再生加速プログラム」及び「大学間連携共同教育推進事業」が、同省から高い評価を受けるなど、順調に実施していることを評価する。

(3) 教育効果を検証するシステムの構築

- ・看護師、保健師、社会福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持していることを評価する。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・教員間の授業参観や公開授業を実施するなど、FD（※）の推進に努めている。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

(5) 優秀な学生の確保

- ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加等、入試広報活動に取り組み、各学科の志願倍率が目標を上回った。

(6) 学生支援の充実

- ・系統的キャリア形成支援講座やマイキャリアポケット（社会貢献活動記録帳）などきめ細かなキャリア形成支援に努めるとともに、段階的インターンシップ・プログラムマップを整備した。

(7) 学習環境の充実

- ・ラーニングコモンズ及び図書館の開館時間延長時の利用者数が減少しており、原因分析と対策に取り組む必要がある。

(8) 人間社会学部の改革

- ・教員組織の改革として学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属とするとともに、3つの全学横断型教育プログラムを開設したことを評価する。

(9) 両学部連携の大学院博士課程の新設

- ・改革推進会議で議論を行った。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の応募率及び獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・日中友好会館訪問団の受入れや、韓国の大学との新たな学術交流協定の締結等、国際交流を推進するとともに、受入留学生数が目標を上回った。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、サポーター派遣人数や登校開始率等が目標を上回るなど、不登校・ひきこもり対策を積極的に行った。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、外部研修会への職員派遣を行った。

5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。
- ・週休日の振替を徹底するなど、時間外勤務が前年度より大きく縮減された。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、教育プログラムにおける特色ある取組についてホームページで広報している。